

てもらおう通勤費の助成なども行っている。

**町長** 幌延町の公営住宅家賃が高いという認識はない。

**質問** 稚内市や天塩町などには雇用促進住宅がある。

全国的な取り組みの中では、助成をして地域に定着していただくことも考えている。幌延町もその考え方で取り組む必要があるのでは。

**町長** 公営住宅の事情による。道営住宅などを払い下げして利用している例なども、他町村ではある。

**質問** 高齢者対策は町としてどう進めて行くのか。

**町長** シルバー人材センターの設立、新たな介護保険外の横だしサービスなど、社会福祉協議会と連携して進めて行きたい。

## 第7回 まちづくり常任委員会報告

6月8日

### ○調査事項

#### (1) 幌延町立診療所の常勤医師確保対策について

昨年度末に浦山所長から退職の意向が伝えられ、早期に常勤医師を確保するように求められたことから、道庁や宗谷総合振興局などに相談し、内部協議を進めていた。常勤医師を募集するにあたり、考え方がまとまったので、その概要を説明する。

北海道地域医療振興財団、全国自治体病院協議会のホームページで、常勤医師の募集を5月31日に済ませて



いる。募集要件は、医師1人体制の場合は当直4回程度で年収3千万円〜3千5百万円で、内科医を募集。また、医師2人体制の場合



は、当直2回程度で年収2千3百万円〜2千8百万円で、内科医1名と整形外科医1名を募集している。

#### (2) 新規就農予定者について

新規就農予定者は、熊本県出身の山口高弘さん（23歳）と、婚約者で本町出身の松田未久里さん（22歳）の2名1組となっている。

幌延町酪農担い手育成センターの無量谷会長と野々村町長が面談を実施し、本町で新たに酪農を営もうとする意思が強く、営農に意欲を持って前向きに取り組める者であると認められたことから、受け入れを決定した。

研修期間は、山口さんの

実家が酪農を営んでいることと、農業専門学校に進学し、卒業後は酪農ヘルパー業務に従事していたことから、1年間とする。研修に対する支援については、研修手当を支給するほか、家賃、交通費に対する助成、指導農家に対する助成を行うこととしている。

(3) JR北海道の現状と幌延町への影響について

(4) 留萌地区農業共済組合留萌北部家畜診療所(仮称)建設に係る建設費用の助成について

(5) 町道雄興1号線代替路線整備事業等について

## 第8回 まちづくり常任委員会報告

8月5日

### ○道外視察における調査結果の報告・協議

委員会では、5月に行った道外行政視察を検証し、新たな町の施策、事業として町民の生活における利便性の向上、地域間交流を図るための具体的提案をすることとし、次の5項目について検討を始めた。

- ① 生活交通対策
- ② 移住定住施策
- ③ 新規産業・起業支援政策
- ④ 合宿誘致政策
- ⑤ 健康マイレージ事業

8月5日に行われた委員会では、生活交通対策について検討した。

まずは幌延市街地区での運用を考え、委員からは想定される利用者、利用料金等について意見集約をした。初めから住民皆様の要望に沿った運行は出来ないと思うが、担当する住民生活課とその内容について、議論を深めた。

委員会としては、今後この5項目については、議会報告会等を通じて町民の皆様と意見交換等を行い、本町に相応しい事業が出来ないか、検討を進めていくこととした。